

さくらだより【25号】



2012年11月5日発行

10月24日、世界経済フォーラムは、政治、経済、健康、教育の4分野での男女平等に関する評価(男女格差報告 2012年版)を発表しました。日本は対象135ヶ国のうちの101位で昨年の報告より3つ順位をおとしました。

報告によると、日本は女性の議員の数や企業幹部の少なさを指摘していて、政治の項目では110位と最低水準だとのこと。女性も皆大学に進学するようになり、その教育のレベルの高さはトップレベルにもかかわらず、労働市場などでは上手に活用されていない、つまり男女の雇用格差が依然としてあるということです。教育に投資していてもそれに見合う利益がでていないのは、日本の国内総生産にまで影響を与えるというから少し驚きです。女性の意欲に問題があるのか、企業や政治に問題があるのか、その両方でしょうが、社会の中で女性のトップが輩出されないという現実にもう少し目を向けたいものです。ちなみに1位はアイスランド、2位 フィンランド、3位 ノエウェー、米国は22位、中国は69位ということでした。

遅くなりましたが2012年5月～8月のARTの報告です。

今回は、40歳以上がだいぶ健闘しました。

採卵件数・・・125例【～29歳3例、30～34歳18例、35～39歳46例、40歳～58例】

受精方法別 {
体外受精・・・95例
顕微授精・・・29例

融解件数・・・101例【～29歳5例、30～34歳21例、35～39歳47例、40歳～28例】

移植件数・・・113例【～29歳6例、30～34歳24例、35～39歳53例、40歳～30例】

妊娠数・妊娠率(移植あたりの胎嚢陽性率)・・・42例(37.2%)

【～29歳3例(50.0%)、30～34歳14例(58.3%)、
35～39歳17例(32.1%)、40歳～8例(26.7%)】

